

底の知らないダークにエロい後輩の、 性依存禁足地探索

トラック1…冬休み初日

【位置…後ろ斜め左耳側15センチ】

せーんばい。

【位置…正面30センチ】

あは。びっくりしましたか？

そう。峰岸穂乃果（みねぎし ほのか）ちゃんです。

奇遇ですねえ、こんなところで。

何してるんです？

ほう。ゲームを買いに…。

ああ、そういえば発売日でしたね。成程成程…。
へえー……。

【位置…右耳側5センチ】

【演技…少し脅すように】

ですが先輩。危ないですよ？

最近この町では、行方不明が多発してますから。
明るい時間だとしても、1人で外を歩くのは、
避けた方が良くないでしょうか。

【演技もとに】

【位置…次のセリフで正面30センチへ移動】

ふふ。そうですね。

私が言えた義理ではありませんねえ。

こうして一人で、外出してるわけですし。

…私はバイトがえりですよ。

そのスーパで、レジ打ちをしてるんです。

今日は変なクレーマーが二人も来て、大変でした。

……隣、座りますね。

SE…隣のベンチに腰掛ける

【位置…右耳側30センチ】

ふうー……。 (短く息を吐く)

今日から春休み。ですねえ。

休みの間、先輩は何か、予定とかあるんですか？

おやおや。ゲーム三昧とは。うらやましいことで。

私は…。 沢山バイトをする予定です。

いえいえ。お金が欲しい訳ではありませんよ。

働いていた方が何も考えずに済むので、そうしようかと。

私にも色々あるんですよ。

考えたくないこと。思い出したいくないこと。

年頃の女の子…。 ですからね。

……。

ところで。先輩。

お暇でしたら、

今から私のコトを、家まで見送ってくださいませんか？

物騒な世の中ですし、

先輩のような頼りになる男性が付き添ってくれれば、
女の子は安心なのですが……。

ふふ。相変わらずお優しいですねえ。

それでは行きましょうか。先輩。

トラック２…誘惑

【位置…正面斜め左耳側３０センチ】

はい。ここが私の家ですよ。
お見送りありがとうございました。

ああ、待ってください先輩。
良かったら私の家、上がっていきませんか？
お見送りのお礼に、お茶でも出しますよ。

ええ。でははこちらへ。
植えてある花を踏みつけないようにだけ、気を付けてくださいね。
その彼岸花、母が植えたモノなので。

SM…庭を歩いて扉の前へ

SE…扉を開ける。

さあどうぞ。お上がり下さい。先輩。

場転

【位置…正面３０センチ】

お茶、入れましたよ。
それとこちらは、最近私が作ったクッキーです。
どうぞ召し上がってください。

おいしいですか？
ふふ。それは何より。
沢山食べてくださいねえ先輩。

……おや。夕刊、気になりますか？
別に読んでもいいですよ。

SS…タ刊を差し出す

どうぞ。

【位置…正面斜め右耳側30センチ】

そうですねえ。

また今日も、多くの行方不明者が出たみたいです。

…この時間までで、56人。

この町の一連の失踪者は、これで千人を超えたいですよ。
いやはや。物騒な世の中です。

……ふむ。

……ところで。先輩。

先輩は、この連続行方不明にまつわる、
ある噂を、ご存じですか？

…そう。噂です。

「行方不明になった人間は、
『お祭り』に、連れ去られた。」っていう。

【位置…正面30センチ】

いえいえ。

何かの比喻ではなく、単語そのままの意味ですよ。

夏祭りとか、文化祭とか。

先輩が思い浮かべる通りの「お祭り」が、人をさらっているんです。

なんでも。さらわれる人間には、その直前、どこからともなく、祭囃子（まつりばやし）が聞こえるそうです。それに導かれるように歩いていくと、いつの間にか、知らない田舎の祭り会場に立っでいて。そのまま帰ることもできず、行方不明になってしまう。と。

大方噂の内容は、こんな感じですよ。

ふふ。そうですねえ。

オカルト。都市伝説。

いやはや、現実味の無い話です。

ですが、

二週間でこの町から千人もの人が蒸発したというのも、同じくらい現実味の無い話でしょう？

ならはこの都市伝説を頭から否定するのは、少しナンセンスなのではないでしょうか？ 先輩。

……ちなみにですねえ。

この都市伝説には、対処法があるんです。

ええ。

その祭ばやしに聞こえてきたら、耳を塞いで、楽しかった思い出を想起するといんだとか。

そうすれば、向こう側へ連れ去られずに済むそうです。

ですから、先輩。

もしもその時が来たら、ちゃんとこの方法を試して。

先輩は、こちら側へ留まってくださいね。……なんて。

……。

……さてさて。

それではくだらない雑談はここまでにして、そろそろ本題に入ってもよろしいでしょうか。

ええ。本題ですよ。

なんです？ その顔は。

おやおや。まさかとは思いますが、私が本当に、お茶を振舞うためだけに先輩を家に上げたところ、そう思ってたんですか？

いやですねえ。

親のいない家に。女の子が。男の人を招待する。そんなの、別の意味があるに決まってるじゃないですか。

【位置…正面斜め左耳側30センチ】

SE:ヒロインが下着を脱ぎ始める。

ん、しょ…。

見て分かるでしょう？
パンツを脱いでるんですよ。

ほら。これが今日の、私のおパンツです。
黒色で大人っぽい、エッチな下着ですね。
先輩の好みだと嬉しいのですが。 ふふ。

さて。もう私が何を望んでいるのか…。お分かりですよねえ。
ノーパンはスースーして落ち着かないので、
はやくコトを始めたいのですが…。

……ズボン、脱いでもらえますか？ 先輩。

【演技…ここから先輩に告白してますが、嘘かホントか分からない感じのキャラで行きたいので、あまり感情を込めないで下さい。】

おやおや。野暮なことを聞きますねえ。
そんなの、

私が先輩のコトを好きだからに、決まってるじゃあないですか。

ええ。ほんとうですよ？

大好き大好き。先輩ラブなんです。私。

ふむ。ダメですか。

それはつまり、私とのえっちを断るということですか？

…成程。私のことをよく知らないと。

確かに私たち、図書委員の当番が同じなだけですもんね。

いえいえ。謝らなくても大丈夫ですよ。

【位置…次のセリフ、正面5センチへ移動しながら】

だって別に、先輩が拒否したからと言って、
引き下がる気はありませんので。

はむ…。んちゅ…。ちゅ…。ちゅぱ…。
(少しキス)

【位置…正面15センチ】

んっ…。
ふふ。さすが男の人ですねえ、先輩。
こんな簡単に引きはがされるとは。

私の肩、強くつかんで…。
少し痛いです、先輩。

ふふ。力が緩まりました。お優しい…。

……ねえ。先輩。

「今ここで先輩とエッチしないと、
私行方不明になっちゃうかもしれません」って。

…そう言ったら、どうしますか？
私とエッチ。する気になりますか？

そのままの意味ですよ。

もし先輩が私とのエッチを拒否するのであれば、
今この町で起こっている連続行方不明事件の不明者リストに、
私の名前が刻まれるかもしれませんって。
そう言ってるんです。

…そうですねえ。趣味の悪い冗談ですねえ。

でしたら。やめておきますか？ 私とのエッチ。

これでもし万が一、明日私が行方不明になったら、
優しい先輩はすぐ後悔しそうですけど…。
それでよければ、どうぞ逃げて下さい。

……。

逃げないんですか？

…ではお言葉に甘えて、好きにしますね。
ベッドへ行きましょうか。先輩。

トラック3…密着騎乗位

【位置…正面15センチ】

ええ。そのまま仰向けで良いですよ。
それではズボン、脱がせますね。
ん…。しょ。

SM…ズボンを脱がせる

…しかしまあ。
先程のくだらない脅しが、通じるとは思いませんでしたよ。
自分で言うのもなんですが、
「エッチしなきゃ行方不明になる」なんて、
取り合う価値のないメンヘラ女の妄言でしょうに。

…へえ。嘘を言ってるようには、ねえ。
先輩に私の、何が分かるのやら。
まあ、何でもいいですが。

…はい。脱がせ終わりましたよ。

成程。これが先輩のおちんちんですか。
思いの外大きいですねえ。
ちゃんと私の処女おまんこに、入ると良いのですが。

ええ。初めてですよ。
大好きな先輩の為に、ちゃんとおまんこ、とって置いたんです。

【位置…次のセリフで正面5センチへ移動】

それでは先輩。
始めましょうか。セックスを。
私の処女、どうぞお受け取り下さい。

スカートの中。このまま騎乗位で、ゆっくり…。

んっ。ふ…。あ…。んあっ……。 (挿入)

【位置…次の一行で右耳側5センチへ移動】

ふうー…。ふうー…。はあー…。はあー…。

奥まで、入りましたよ。先輩。

ふふ。相当痛いですねえ。処女喪失というのは。いえいえ。悪い気分ではありません。

先輩に与えられる痛みなら、私は喜んで受け入れますので。

…では。動きますね。

先輩はただ、私に身をゆだねてください。

【ここから、そんなに激しくは喘がないでください。

ゆったり気持ちよくなってる感じで…】

んっ…。ふう…。はあ…。はあ…。
んっ…。あっ…。はあ…。はあ…。

あっ…。ふう…。んっ…。ふう…。
はあ…。はあ…。んっ…。ふう…。

おやおや。始まったばかりなのに、早くもお顔、とろけてますよ？

割と洩っていたセックスなのに。

こんなに簡単に感じちゃうんですね先輩。

おちんちん弱くて、可愛いんです。

んっ…。あっ…。はぁ…。ふう…。

しかし。

動くとともに、痛いすねえ。

おちんちんが、処女喪失直後の膣壁と擦れて、おまんこがジンジンと、焼かれるようです。

【位置…右耳側0センチ】

【次の2行囁き】

痛い。痛い。痛いですよー先輩。
セックス、とても痛いです。

【囁き終了】

んっ…。はぁ…。ふう…。はぁ…。

おや。ごめんなさい。

こんなこと言われたら、セックス楽しめませんよね。
ですが、先輩に私の処女を奪ったこと、
今先輩のせいで、私が意味を感じていること。
しっかり自覚して頂きたくて……。

んっ…。ふう…。

ふふ。ダメですねえ。

我ながら重い感情が、隠しきれません。

【位置…次のセリフで正面5センチへ移動】

キス…。

キスをすればこの感情も、
多少は発散できるでしょうか。

舌、絡めますよ。先輩…。

【深めのキス20秒】

んっ…。あっ…。ふう…。はぁ…。
はぁ…。はぁ…。ふう…。んっ…。

ふふ。少しずつ痛みが和らいで、気持ちよくなってきました。
別に痛いままでも良かったのですが、

この快感も、
先輩にセックスを教えられているようで、悪くありません。

んっ…。あっ…。ふう…。はぁ…。

ねえ……。先輩。

先輩は、どんな女の子がタイプなんでしょうか？

いえ。

最初にセックスを断られたこと、
なかなかショックだったんですよ。私。

それで、もっと私が先輩の好みドストライクな女の子であれば、
断られることも無かったのかなと、考えまして。

へえ…。ストライクでも、断るんですか。

それはそれは、カッコいいことで。

……しかしだとしても、知りたいですねえ。

先輩の好みの女の子。色々と参考に、しますので。

んっ…。ふう…。はぁ…。はぁ…。

ほら。教えて下さいよ先輩。

先輩は、どんな女の子とえっちしたかったんですか？

清楚で大人しい女の子ですか？

小悪魔で、あざとい女の子ですか？

それとも案外、純粋な小さい子とかが、好きだったりするんでしょうか。

んっ…。はあ…。あっ…。んっ…。

んー？

ふふ。何ですかそれは。答えになってませんよ？

私も悪くないって、ちよっと失礼なんじゃないでしょうか。

…ですがまあ。先輩的にはフォローのつもりなんでしょう。ならば一応、お礼をいっておきましょうかねえ。

「セックス中に女の好みを聞くような、ヤバイ私に付き合って下さりありがとうございます。」先輩…。

【深めのキス20秒】

んっ…。あっ…。はあ…。ふう…。

あっ…。んっ…。ふう…。はあ…。

ふふ。先輩の喘ぎ声、どんどん大きくなりますねえ。

悪くない程度の女の子とのセックスでも、

そんなによがっちゃうんですねえ、先輩は。

いえ。冗談ですよ。

…まあ。仕方ないですよね。

我ながら私、かわいいですし。

おまんこは処女でキツキツ。

先輩が大好きなので、愛液もダラダラ。

べろちゅーもピストンも、非常に積極的。

そんな女の子との生ハメセックスは、

どうしたって最高に、気持ちがいいモノでしょう。

んっ…。あっ…。ふう…。はぁ…。

まあそれでも。

先輩は少し、感じ過ぎですけどね。

女の子みたいに、あんあん あんあんと。

とても年下の女の子とセックスしてる姿とは、思えませんよ。

先輩と呼ぶの、ためらうくらいです。

ん…。ふう…。

…ですが…。いいですよ。

好きなだけ喘いで、私にもっと、

情けなくてかわいい姿、見せてください。

私だけですよね。こんな先輩を見れるのは。

んっ…。あっ…。ふう…。はぁ…。

ほら。弱いおちんちん、

後輩処女おまんこで、いっぱい弄んであげます。先輩……。

【深めのキス20秒】

んっ…。あっ…。あっ…。はぁ…。

【位置…次の一行で右耳側5センチへ移動】

んっ…。ふう…。はぁ…。はぁ…。

ばーか。んっ…。はあ…。

ばーかばーか。先輩は馬鹿ですねえ。

はあ…。はあ…。

いえいえ。

馬鹿だと思ったから、馬鹿と言っただけですよ。

ばーかばーか。

馬鹿で、おちんちん弱くて、救いようがないですねえ。先輩は。ふふ。

んっ…。あ…。はあ…。はあ…。

…。ふう…。

【ピストン、一度やめる】

…。ねえ先輩。

いつか。

私と関わったことを後悔する日が、訪れますよ。

逃げてれば良かったんです。

直感的にヤバい女だって、分ったでしょうに。

【位置…次の一行で正面5センチへ移動】

ばーか。ばーか。ばーか。ふふ。

【ピストン再開】

【深めのキス20秒】

んっ…。あっ…。はあ…。ふう…。

……ではそろそろ。お射精しましょうかねえ。先輩。
もう出るんでしょう？

先程からずっと、限界といった表情、してますもんね。

あっ…。んっ…。ふう…。はあ…。

ほら先輩。いいんですよ。

このまま私の処女おまんこに、中出し、してください。

いいえ。マズくは無いですよ。

私今日、安全日ですの。

気にせずビュービュー好きなだけ、

この後輩女子の子宮に、

先輩のおちんちんミルク吐き出していいんです。

んっ…。はあ…。んっ…。ふう…。

はい？ 念のため？

うるさいですねえ。

黙っておちんちんの射精準備、整えてくださいよ。

先輩はおバカさんなんですから、

おちんちんだけで適当に、物事を判断すればいいんです。

はい。お口塞いじゃいますより。先輩。

【深めのキス20秒】

んっ…。はあ…。あっ…。ふう…。

ふふ。限界ですね。出ちゃいますね。

処女おまんこに生中出し、びゅーびゅーどくどく、
吐き出しちゃいますね。

ええ。それでいいんですよ。先輩。

我慢せず大量に、後輩女子に生中出し、しちゃいましょう。

【次の2行は、「っ」で強く腰を打ち付けるイメージです。】

いーけっ。いーけっ。
だーせっ。だーせっ。

【位置…次の一行で右耳側0センチへ移動】

さあ。中出しどーぞ。せーんぱい。

【ここから囁き】

びゅー。びゅー。びゅー……。びゆるるー。びゆるるるー。
んっ…。あっ…。んあっ…。せーえき、熱い…。ですね。
ドクドク…。びゆくびゆく…。びゅっ。びゅっ。びゅっ…。

すう…。ふう…。

はあ…。ふう…。(少し呼吸を整える)

ふふ。おちんちんビクビクしてます
お顔もそんなにトロけさせて、
生中出し、そんなに気持ちいいんでしょうか。
もっと、もっと出して良いですからね。先輩。

【囁き終了】

【位置…次のセリフで正面5センチへ移動】

このまま最後の一滴まで、吐き出してください。

【深めのキス20秒】

はい。お疲れさまでした。

いっぱい出ましたねえ。先輩。

おなかの中、先輩の精液でタプタプになっちゃいましたよ。ふふ。

……。

…ねえ。先輩。

……しばらく、抱き合っていましたか。

今日のこと、忘れないよう。

先輩の体の感触、しっかり私に記憶させてください。

【位置…次の一行で右耳側5センチへ移動】

ぎゅーーう。

すうー…。ふうー…。

すうー…。ふうー…。(呼吸音2回)

…ばーか。…ふふ。

トラック4…身を寄せ合ってお外で手コキ

【位置…正面30センチ】

おやおや先輩。

無言で位置情報を送っただけなのに、来てくれたんですねえ。
随分とお暇なことで。

ふふ。別にいいじゃないですか。面倒くさいことしても。

そういう女の子だってわかったうえで、

先輩は昨日、私と連絡先を交換して下さったのでしょう？

…ほら先輩。隣、座ってくださいよ。

【位置…左耳側30センチ】

…川を眺めるのは良いですねえ。

心が落ち着きます。

特にこの時期の河原は虫もいませんし。

静かで、心地良くて、

最高のくつろぎスポットだと。先輩も思いませんか？

ふふ。確かに。少し肌寒いですね。

それはまあ、致し方なしですよ。

……。

ねえ先輩。

彼岸というモノを、ご存じですか？

そう。三途の川の向こう岸。

仏教における、死後の世界のことです。

……仏教では、人は死んだあと三途の川を渡り、彼岸と呼ばれる死者の国へ行くと言われています。そしてそこで七度に渡る審判が行われ、四十九日後（しじゅうくにちご）に天国か地獄か、魂の行き先が下される…。

まあ。わざわざ説明するまでも無い、結構常識的なお話ですね。

…ですが先輩。

一説によると彼岸というのは別に、

死後の世界では無いという話も、あるんですよ。

ええ。

そもそも仏教の経典（きょうてん）においては、

「彼岸は悟りを開いた者がたどり着く場所」

とだけ説明されていて。

死後の世界なんて言う説明は、されてないんですよ。

ですから経典をそのまま解釈するのであれば、

彼岸というのは死後の世界では無く、

ただ此処とは違う異世界、

もしくは、簡単には立ち入れない幻の場所。

といった風に考えるのが、妥当という訳ですね。

もしかしたら、

私たちが生きたまま立ち入ることも、あるのかもしれませんがねえ。

彼岸。三途の川の向こう側…。

先輩は、どんな場所だと思います…？

……ふふ、退屈そうな顔をして。

先輩にはいささか、興味のない話でしたか？

それとも、何かを期待して、

雑談を煩わしく思ってるんでしょうか？

……えっち、します？ 先輩。

ふふ。顔赤くして。

そうですね。

昨日セックスのあと、私と連絡先を交換したということはつまり、
また私とえっちがしたいと、そういう事ですもんねえ。

【位置…次のセリフで正面斜め左耳側30センチへ移動】

では先輩。

しましうか。えっちなこと。

はい？

ええ。移動なんかしませんよ。

今からここで、するんです。

いえいえ。心配は無用です。

この河原、時々橋の上を車が通るくらいで。
ほとんど人通りありませんから。

それにほら。

私、ブランケットを持ってきてるんですよ。

これにくるまりながらすれば、

外からはエッチしてること分かりませんし。

寒いのも解決して、一石二鳥でしょう？

ですから心置きなく。
二人でくるまりますよ。先輩。

【位置…「ん、しょ…」で左耳側5センチへ移動】

ん。しょ……。

…ふふ。先輩の体、あたたかいですねえ。
身を寄せ合って、くるまって…。
なかなか幸せな気分です。

すう…。ふう…。

ちゅっ…。(頬にキス)
ふふ。

ではズボン脱がせますから。腰を上げてください。

ええ、ぬぎ…ぬぎ。

おー…。おちんちん大きいですねえ。先輩。
屋外でもちゃんと、興奮してるじゃないですか。

【位置…左耳側0センチ】

【ここから囁き】

ではおちんちん握って。しこしこしていきますね。

しこしこ。しこしこ…。

すう…。ふう…。(呼吸一回)

…どうですか？

先輩の手とは違う、柔らかくてすべすべの、女の子の手。
私のおててオナホは、気持ちいいでしょうか。

…そうですか。

まあ先輩のおちんちんは、とっても弱いですからねえ。
大体なんでも、気持ちよくなれますよね。

…よわわおちんちん。ざこおちんちん。
ばーかばーか。ばーかばーか。

…ふふ。ずっとビクビクさせて。可愛らしいです。

…先輩。

手じゃなくて、

おまんこで気持ちよくなりたかったら、いつでも言うてくださいね。

先輩が周りのことを気にしているようですので、
一応傍から見た時違和感の出にくい、
手コキをしている訳ですけど…。

先輩がお望みであれば、いつでも私のおまんこで、
このおちんちん犯してあげますよ。

ふふ。ではこのままで。

しこしこ。くちゅくちゅ。

しこしこ。くちゅくちゅ…。

すう…。ふう…。(呼吸音2回)

……しかし先輩。

可愛い息遣いですね。

フーツ。フーツ。って、押し殺すような、浅い呼吸。
お外だから、喘ぎ声我慢してるんですか？

ふふ。そうですか。偉いですね。

よしよし。いい子ですよー先輩。

頑張って喘ぎ声、我慢しましょう。

私は別に、エッチしてるのがバレて補導されたって、全く構わないのですが、

先輩はバレたくないんですもんね。

ええ。喘ぎ声我慢、後輩として応援してます。

…ですが先輩。

私、先輩がいくら喘ぎ声を上げそうになっても、手コキを加減するつもりはありませんから、そのつもりでいて下さいね。

先輩に、「私の手コキは気持ちよくない」とか思われたら、悲しいですから。

しっかりおちんちに快感を流し込んで、私の手で沢山、感じてもらいますよ。

ほら、もっと先輩が気持ちよくなれるよう、

追加でお耳も舐めてあげます。

私の手コキは、とっても気持ちいい。

しっかり覚えてくださいね。先輩…

【耳舐め20秒】

【囁き終了】

【位置…左耳側5センチ】

おやおや。

我慢していたはずの喘ぎ声、普通に漏れてますねえ。

耳舐め、そんなに気持ち良かったんですか？

ほら。そんなあんあんと、エッチな声を上げていたら、
通行人にバレちゃいますよ？

年下の女の子に喘がされる、
情けないエッチしてること気づかれて、
ドン引きされちゃいますよ先輩。ふふ。

【位置…次のセリフで正面5センチへ移動】

……ねえ先輩。

声を我慢できないようでしたら、
もっと私のコト、抱きしめると良いかもしれません。
ぎゅっと何かにしがみつけば、
その分我慢、しやすいでしょうから。

ええ。どうぞ遠慮なく。

好きなだけぎゅっと、私にしがみついてください。

【位置…次の「ぎゅーう」で、右耳側0センチへ移動】

ぎゅーう。

ん……。ふふっ。

抱き心地いいですかねえ？ 私の体は。
柔らかくて、いい匂いのする、

昨日先輩とセックスした、女の子の体ですよ。

……ハグって、素晴らしいですよ。

私も寝るときなどによく、

先輩に抱きつく妄想をしながら、抱き枕をぎゅっとするんですけど。
抱きつくことでしか得られない幸福感が、確かにあります。

ですが、先輩。

女の子の中には、むやみやたらに抱きつかれるのを嫌う子も、
結構いるみたいなんですよね。

服がしわになるとかそういうのを気にして、ハグしたくないと思うのだとか。

不思議ですねえ。

私は先輩にだっこして貰えるなら、どんなおしゃれしてる時だって構わないのですが。

…ハグも。えっちも。

ずっとしてたいです。先輩…。

【耳舐め20秒】

ふふ。抱きついたおかげか、

喘ぎ声は多少、我慢できるようになったようですね。先輩。

ですがその代わり、

おちんちんのビクビクは、激しくなった気がします。

ほら。

ビクビク。ぴくぴく。

私の手の中で沢山暴れまわってますよ。先輩おちんちん。

それにしても。

やはりこのおちんちんは、私の指とは全然違いますね。よわよわですが…。硬くて、熱くて、遅いです。

ふふ。あのですねえ先輩。

私、昨日先輩が帰った後、

夜中までずっと、オナニーしてたんですよ。

えーっと…。夕方6時から、夜の12時くらいまでなので…。

大体6時間くらいでしょうかねえ。

先輩先輩って、抱き枕をぎゅってしながら、

中出ししてもらった自分の体を、ずーっと弄り回してたんです。

ええ、六時間。

おや。なんですかその顔は。引かないでくださいよお。

私がヤバイ女なのは、今に始まったことじゃないでしょう？

……ですが、先輩。

6時間ぶっ通しで自慰にふけても、

結局全然、満足できなかったんですよね。

どれだけ激しく体を慰めても、

先輩のおちんちんを出し入れする感覚とはほど遠くて、

物足りないままでした。

ですから先輩。今はおちんちん触れて、うれしいですよ。

先輩のおちんちん、好き。

私を気持ちよくしてくれる、このおちんちん、大好きです。

はあ…。

なんでこのおちんちんは、私の家に無いんでしょうねえ。

これが無いと私、生きてけないのに……。

【耳舐め20秒】

……ねえ先輩。

私がオナニーしてる時の喘ぎ声、聞きませんか？

いえ。実は録音して、スマホの中に入ってるんですよ。

ほら、もう片方の耳に、イヤホン入れてあげますね。

私のえっちな声、お楽しみください。先輩。

SC…録音した音声流れる

…どうですか？　ちゃんと聞こえています？

私、何度も先輩先輩ってつぶやきながら、喘いでるでしょう？
昨日はこんな感じでずーっと、自分を慰めてたんですよ。

おや。おちんちん反応させて。

私の喘ぎ声、興奮しますか？

頑張って可愛く喘いだ甲斐があったというモノです。ふふ。

……実はですねえ、先輩。

私、先輩以外でオナニーしたこと、一度も無いんですよ。

先輩だけしか好きじゃないですから。

いつもいつも、先輩とのエッチのみを妄想して、
自分を慰めてきました。

そして私が一番好きなのが、

こうして録音しながらするオナニーなんです。

いつか録音した私のエッチな声を、先輩に聴いてもらうんだと

そう思いながらオナニーすると、

先輩と精神的につながってる気がして、

頭がふわふわしてくるんですよ。

ですから実はこの音声以外にも、

沢山沢山私の喘ぎ声の録音、あるんですよ。

合計すれば、100時間は超えるんじゃないでしょうか。

あとでデータにして渡しますから。

良かったら聞いてくださいね。先輩。ふふ。

【耳舐め20秒】

SE…耳舐め中、録音の方で、「助けて先輩」と呟く

ん。どうしました？ 先輩。

助けて…？

ああ。そういえばそんな事、つぶやいてましたね。私。

いえいえ。お気になさらず。

気持ちよすぎて辛いから、助けてくださいー、みたいな。そんなニュアンスでの発言ですよ。何でもありません。

…ですがまあ。

喘ぎ声を聞かせるのは、これくらいにして置きましょうか。なんだか急に、恥ずかしくなりましたので。

SE…喘ぎ声を聞かせるのをやめる。

おやおや。なんですかねえ先輩。その顔は。

ふふ。答えません。

一生モヤモヤしてればいいですよ。

おバカな先輩は、なにも分からないまま、おちんちん気持ちよくなっていて下さい。ばーかばーか。ふふ。

【耳舐め20秒】

【ここからオナニーを始める。息荒めで】

すう……。

んっ……。んあっ……。あっ……。うっ……。

ふう……。ふう……。あっ……。んっ……。

いえいえ。オナニーしてるだけですよ。

録音した喘ぎ声、中断してしまいましたので。

代わりに私の生の喘ぎ声でも、

聞かせてあげようかと思ひまして。

あっ…。んっ…。んんっ…。ふう…。

せんぱいっ…。すきっ…。はぁ…。はぁ…。

はい？ ああ、そうですねえ。

喘ぎ声、普通に出してます。その方が気持ちいいですから。

あっ…。はぁ…。んっ…。あっ…。

別にもう、どうしても良くないですか？

バレちゃいましょうよ先輩。

通行人に、あいっつらエッチしてるんだって思われて、

二人で補導、されちゃいましょう？

あっ…。んっ…。ふう…。ふう…。

ほら。おちんちん扱くの早くしますから。

先輩ももっと、喘いでください。

どうせ私が派手に喘いでますし、関係ないでしょう？
声出して、気持ちよくなって、

最低な屋外えっち、楽しみましょうね。先輩…。

【耳舐め20秒】

はぁ、はぁ。んっ…。はぁ…。

ふふっ。誰かに見つかったら、

最悪停学とか、食らっちゃうんでしょうかねえ…。

んっ…。あっ…。はあ…。はあ…。

見つかりたいです。先輩。

先輩と、二人で、停学処分…。楽しそうじゃないですか？

はあ…。はあ…。んんっ…。あっ…。んっ…。

ばーか。

先輩の学校生活。滅茶苦茶にしてあげます…。

はあ…。はあ…。

気持ちいい…。好き…。んあっ…。

【耳舐め20秒】

んっ…。あっ…。ふう…。ふう…。

ん…。そろそろ出ますかね？

ふふ。私ももうイきそうです。

んっ…。あっ…。ふう…。あっ…。

では。一緒にイキましょうか。先輩。

私いつも、先輩と同時にイクのを想像して、
一人えっち、してたんですよ。

んっ…。あっ…。はあ…。はあ…。

ほら。五秒前です。

ごーお。よーん。あっ…。んっ…。

さーん。ふう、はあ…。

にーい。んっ…。あっ…。

いーち…。ふーっ。はあ…。

…えっと、まってください。
やっぱり中出し…。中出ししましょうよ、先輩。

【位置…次の喘ぎで正面5センチへ移動しながら】

はあ…。はあ…。はあ…。

ほら。いれますね。

おまんこに、ずっぷうー…。
ぜーろ。

ん！ んん！ んあ！ あ……。

（以下キス始める）

はむ…。ちゅ…。ちゅ…。んちゅ…。
ちゅ…。ちゅむ…。ふふ。でてますねえ…。
ちゅふ…。むちゅ…。
中出し…。きもちいいですよ…。へんぱい…。
んちゅ…。ちゅ…。

【引き続きキス20秒】

ふう…。

ふふ。出し切ったでしょうか。

お疲れ様です。先輩。

にしても今日も、随分中出ししましたねえ。

どうするんですかー？

そろそろ赤ちゃん、できちゃったかもしれませんよ？

いえいえ。冗談ですよ。大丈夫です。

おちんちん、抜きますね。

【位置…次のセリフで、正面15センチへ離れる】

ん…。あつ…。
ふう…。

…ん？
なんですか？ 先輩。

【以下、一瞬驚くが、そのあと平静に戻って】

…は？

……。

おやおや。そうですか。
私のコト、好きになってしまいましたか。

いやはや。驚きました。
たった二回エッチしただけなのに、
単純なんですねえ。先輩は。

……ねえ、先輩。

私は、ヤバイ女の子、ですよ？
なんとなく分かってるんじゃないですか？
私みたいな子は、付き合っっちゃいけないタイプ。筆頭だって…。
それなのに、本当にお付き合い。したいんですか？ 先輩。

…そうですか。

では先輩。ごめんなさい。
その告白は、丁重にお断りさせて頂きます。

ええ。フリました。

勇気を出して告白したのでしょうが、ご愁傷様です。

…いえね先輩。仕方ないんですよ。
だって私。

もうすぐこの町を出て、遠い所へ行きますから。

その場所は、遠距離恋愛すらできなくて。

戻ってこれるかも、分からないような場所なんです。

……ですの、付き合うことはできません。

先輩にえっちを持ち掛けたのは、

最後の思い出作り程度の気持ちだったのですが、
変な気を持たせてしまいましたね。

いやはや。ごめんなさいですよ。お馬鹿な先輩。

……。

【位置…正面30センチ】

では。

もうお会いするのは、これっきりにしましょうか。

そのブランケットは、差し上げます。

あと、こちら。

私のオナニー音声が入ったUSBも、受け取ってください。

いいえ。待ちませんよ。

これでおしまい。サヨナラです。

今までありがとうございました。
良い新年度を。先輩。

トラック5…祭囃子

SE…歩く音。

SE…耳鳴りが聞こえたのち、祭囃子が聞こえてくる。

【位置…後ろ斜め左耳側30センチ】

……そちらへ行ってはダメですよ。先輩。

SE…立ち止まる

【位置…正面30センチ】

ええ。こんにちは。

昨日先輩の事をつった愛しの後輩。

峰岸穂乃果（みねぎし ほのか）ちゃんです。

説明は後にしましょう、先輩。

早く耳をふさいでください。

一刻も早くあの祭囃子から、遠ざからないといけません。

ん…。そうそう。

ではそのまま。楽しかったことを思い浮かべて、深呼吸しましょう。

すってー…。吐いてー…。

……ゆっくり。耳から手を放してみてください。

どうですか？

祭りの音、聞こえなくなりましたかね？

……であれば、大丈夫です。

それにしても幸運でしたねえ。偶然私が通りかかった時で、私がいなければ先輩は今頃、向こう側へと連れ去られていたかもしれませんよ？

一応こうなった時の対処法は、既に先輩に教えていたはずですが…。いざというときに一人で実践するのは、なかなか難しかったようで。

SE…抱きしめる

【位置…右耳側5センチ】

【演技…ここから圧の強い脅すような声で】

…それで。先輩。

何を落ち込んでるんですか？

あの祭りの音は、

死にたいと願った人にしか聞こえないはずなんですが。いったい誰が、そこまで先輩を追い詰めたんでしょう。

……ふむ。私、ですか。なるほど。

【演技…もとに】

【位置…正面15センチ】

いやいや。

女の子にフラれた程度で、普通そんなに落ち込みますかねえ？
というか本当に、私のことが好きだったんですか。

たった2回、エッチしただけでしょうに。

思った以上に先輩、おバカでキモいですよ。

……はい。なんですか？

説明して欲しい…。説明して欲しい…。ねえ。

それは、何についてのことを言ってるんでしょう。

昨日先輩をつった理由を、もっと詳しく話せと言うことですか？
先程聞こえた祭囃子の正体を、解説しろということですか？
それとも…。

【次の2行、ヤンデレっぽく】

この町で起こっている行方不明事件について、
私が犯人であることを自白しろと、そう言ってるんでしょうか。

……。

……いいですよ先輩。説明してあげます。
そこのベンチにでも、お座りください。

【位置…右耳側30センチ】

さて。何から話しましょうか。
うーん。そうですねえ。

まずは私の母親の話を、するべきですか。

…あのですね先輩。

私の家、母子家庭なのですが。

その母親が一年前、

「向こう側」に、取りつかれたんですよ。

そう。向こう側。

向こう側に存在する、こことは違う世界。
それに、私の母は取りつかれました。

取りつかれた。というのはつまり、
狂ったように、向こう側への行き方を研究し始めた、
ということですね。

段々と母は、人が変わったようになっていった。

「どうやったら向こう側へ行けるのか」…と。

うわごとのようにブツブツと呟きながら、

資料に没頭する生活を始めました。

仕事もやめて、家庭も顧みず…。

もはや母と私は、同棲している他人のような感覚でしたね。

まあ、もともと別に良い母親ではなかったので、

あまり困ったりはしませんでしたけど…。

そんなこんなで、

向こう側に取りつかれた母親との生活は、一年ほど続いたのですが。

今年の一月末頃。つまり二か月ほど前に、

母が突然、「向こう側への行き方が分かった」

…と言いだしたんです。

まるで子供の用に目をキラキラさせて、

無邪気に喜んでいる当時の母の顔を、今も覚えています。

…そして母はおもむろに荷物を整えて、

家を出て行ってしまいました。

…それからしばらく、母が帰ってくることは無くて。

私はてっきり、どこかで野たれ死んだものだ、と、

思っていたのですが。

およそひと月半経過したのちに、

突然母が、帰ってきたんです。

……。

…忘れもしません。

深夜の三時に、インターホンが何度も鳴らされて。
起きて玄関へ行くと、扉の向こうから母の声が、
何度も私の名前を呼ぶんです。

「ほのか」「ほのか」…って。

おそろおそろカギを開けて扉を開くと、
そこには、私の母のようなものがいました。

ええ。ようなもの、という表現が、正しいです。

目の前にいたのは、
体中がぼろぼろと崩れて今にも崩壊しそうな、
母親の形に似た土人形、でしたから。

ただその土人形が、母の声で私を呼ぶので、
かろうじてそれが母親だと、私は認識できたんです。

驚きながら、恐怖しながら、

「大丈夫？」と、私は聞いたのですが。

それには答えず。

「これを食べなさい」と、

母は黒くて丸い飴玉のようなものを、
私の口元に差し出してきました。

それで私は言われるがまま、
差し出された黒い飴玉を口に放り込み、飲み込みました。

…当時の私はもう、よく分からなくなっていました。
それを食べれば目の前の母がもとに戻るんじゃないかって。
そんな根拠のない思考を、巡らせたんです。

……。

しかし、その何かを飲み込んでも、母が元の姿に戻ることはなく。

それどころか母親は、

直後に砕け散って、土くれになって消えてしまいました。後には数本の、真っ赤な彼岸花が咲いているだけ……。

私の家の庭先に、彼岸花が咲いていたでしょう？あれがその、私の母の、成れの果てです。

……そして。そしてですね先輩。これが全ての、引き金だったんですよ。

私の前で母親が、彼岸花になって消えた日。

その日から、先輩もご存じの事件が、起こり始めます。

ええ、今もなお続いている、連続行方不明事件。

今日もこの町で、64人の人が消えました。

これで計1200人も被害者が出ているというのに、その足取りは全くつかめない。

まるで異世界に。

向こう側に。連れ去られてしまったかのように……。

…さて、あまりグダグダと話してもしょうがないですね。ここからは諸々をひつくるめて、端的に結論を述べていきましょうか。

今この町で起こっている連続行方不明事件。

これは向こう側が、自分の世界にこの町の人々を、引きずり込んでいるから発生している事象です。

先ほど先輩、祭囃子の音が聞こえて、体がどこかへ引つ張られるような感触を、感じたでしょう？あれが、向こう側に引きずり込まれるという現象。祭囃子に導かれた先にあるのが、向こう側の世界です。

ただ幸いなことに、健常人を取り込むことができるほど、向こう側の力は強くありません。

向こう側が取り込むことができるのは、こちらの世界への執着が薄い人間。つまり、死にたいと思っている人間が、取り込まれるんです。

ですから取り込まれそうになっても、先程の先輩の様に、楽しかった思い出を想起して生きる活力を見出せれば、こちらへ踏みとどまることができるという訳ですね。

……それでは。

「なぜ向こう側は、この町の人々を取り込むのか」という話ですが。

おそらく、

私の母が向こう側から持ってきた、あの黒い飴玉のような何かを、

取り戻そうとしているんだと思います。

というのも、あの祭囃子に耳を澄ますと、

おはやしに交じって、ある掛け声が聞こえてくるんですよ。

「盗人を探せ」「盗人を探せ」って。

…向こう側は探してるんです。

母が盗んだ何か、おそらくあの黒い飴玉を。

それを取り戻すため、

片っ端からこの町の人々を、取り込んでいるんでしょう。

……ですが、先ほども話した通り、

その黒い飴玉は、私が飲み込んでしまったんですよ。

色々と、面倒なことになっている訳です。

はあ…。

……。

以上が。

私の知る限りでの、この行方不明事件の真相です。

まあ真相と言っても、

半分は憶測ですし、分からない事ばかりですが……。

……さて、先輩。

これでよくわかったでしょう。

私が先輩をつった理由。遠くに行くと言った、その意味が。

おやおや。分からないんですか？

相変わらずおバカですねえ。

それとも、とぼけてるんでしょうか。

では言いますけれど、先輩。

私。近々向こう側へ行くことにしました。

きっとこの行方不明事件は、

母が持ち帰って来たあの黒い飴玉のような何かを、
向こう側へ返さない限り終わらないんです。

ですから、それを飲んでしまった私は、

責任をもって向こう側へ、行かなければいけません。

もう少し考えた方が、なんて。無責任な事いいますねえ、先輩。
毎日毎日行方不明者が増えている現状で、

判断を先延ばしにできる訳ないでしょう？

むしろ、遅すぎたくらいです。

もう既に千二百人も、この町から消えてしまいました。

ええ。

だからこそ、この行方不明事件の犯人は、私なんですよね。
私をもっと早く、大人しく向こう側へ自首していれば、
ここまでの事にはならなかったでしょうから…。

…それにね先輩。

どうしたって私はもう、

遅かれ早かれ向こう側へ取り込まれると思いますよ。

言ったでしょう？

死にたいと思っている人ほど、向こう側へ引きずられるって。

連日続く行方不明のニュースの中、

私はもう、本当に消えたくなくなってしまっていて。

あの祭囃子が、毎日のように聞こえてくるんです。

先輩とエッチをすることで、生きる意味を見出して、こちらへ留まろうとも考えたのですが、いざエッチしてみれば、

その自分の生きぎたなさにも、自己嫌悪がかさんで……。

ですから、私はどのみち、近いうちに向こう側へと、引きずり込まれるでしょう。

結局、選択肢は一つなんです。先輩。

……とまあ、そんなわけで。

私は自分の使命を果たすため、先輩を振ったという訳ですね。納得頂けましたか？

ふふ。そうですか。

ですが納得していなくとも、私はそろそろ帰らせて頂きます。実はこの後、バイトがありました。

荷物を整えて、スーパーへ行かなければいけないんですよ。

…はい？

ああ、私が向こう側へ行くのは、おそらく今夜でしょうね。バイトが終わったら、出発しようかと。

なんですか？

……成程。

なんというか、浅はかな提案をしますねえ先輩。

……ですが…。

まあいいでしょう。

ご要望通り、向こう側へ行くのを一日だけ、遅らせてあげます。そして明日、最後にデートを、しましょうか。

言っておきますが、別に先輩とデートをしたからと言って、私が向こう側へ行くことを、
思いとどまることは無いですよ。

ただやはり、私も先輩が好きなので、
仕方なく付き合っただけなんです。
明日、楽しみにしてますね。先輩。

トラック6…限界

【位置…正面30センチ】

…峰岸穂乃果（みねぎしほのか）です。先輩。

迎えに来ていただいて申し訳ないですが。

もうこの家には、誰もいませんよ。

ごめんなさい。今日のデートは、いけません。

これを録音している現在は、朝の4時、なのですが、私、今から向こう側へ、行くことにしました。

一晩考えまして。

私はやはり、デートなんかしている場合ではなく、今すぐにでも、

自分の罪と向き合うべきだという結論に、至ったんです。

……。

昨日、私のバイト先のスーパーで、万引きがあったんですよ。犯人は、小学3年生くらいの、小さな男の子。

私はその子の確保に直接関わった訳ではなくて。

店長から、「こういう事があったよー」と、

聴いた程度なんですけど…。

……あのですね。先輩。

その子が万引きした理由というのが。

「親が行方不明になって、食べるものが無くなったから。」
だったんですよ。

それで捕まってもいいからと、お弁当一つ、盗んだそうです。

……。

ですから。

ですから私は、デートなんかしてられません。
向こう側へ行きます。全部私のせいなので。

…私。どこかで自分を、誤魔化していました。
死にたいと思っている人しか、

向こう側へ呼ばれないというのなら、
それはある種、その人の願みを叶えている側面があって、
そんなに悪いことでもないんじゃないかって。
ほんの少し、自分を肯定していたんです。

でも。違っただけですねえ。

子供とか、家族とか。そういうのを守るために、
死にたくても血を飲んで生きている人は沢山いて。
その気高さを私は、踏みにじってしまったんですよ。

ごめんなさい。ごめんなさい。
私のせいです。ごめんなさい…。

……では。先輩。

改めて、さよならです。

向こう側がどういうところかは分かりませんが。
ほとんど帰ってこれる望みは無いでしょう。

どうぞ先輩は私のことはあきらめて、
他の良い女の子を、見つけてください。

…それと。考えたくはないですが。
もし私がいなくなった後も、行方不明事件が続くようでしたら、
この町から出ることをおすすめます。

……。

いやあ。楽しかったですねえ。先輩とのエッチは。

デートはこうして蹴ってしまいました。

先輩とエッチ出来ただけでも、

まあ私の人生、悪くなかったような気がします。

ですが先輩。

私みたいな、明らかに地雷の女の子には、

もう引がかかったちゃダメですよ。

性癖、改めてくださいね。

…ばいばいです。おバカな先輩。

SE…多少の間のあと、祭囃子が聞こえ、歩き出す主人公

トラックフ…足コキ

SE…祭りばやしの音

【位置…正面斜め右耳側30センチ】

【演技…ここから酔っ払った感じで】

おやおや、先輩じゃないじゃないですかあゝ？

はいはい。

峰岸穂乃果（みねぎし ほのか）ちゃんですよ。
ご無沙汰ですねえ。ふふふ。

あ、先輩先輩。

チョコバナナ食べますか？

ほら。私の食べかけですけど。

いえいえ。遠慮なさらず。お口開けてくださいよ。
あーん。

【位置…正面30センチ】

どうです？ おいしいですかね？

とうかそうやって、バナナをほおばる先輩、
なかなかエッチで興奮しますねえゝ。あはは。

んー。好き。

好き好き。先輩大好き。ふふふ。

んゝ？ なんです？

いやですねえゝ。私はいつも通りですよ。
いつも通りの、かわいい後輩でゝす。

ほら先輩。お祭り一緒に、楽しみましょう？
でーとでーと。

夏の思い出、作りましようよ。あははっ。

はい？

はて、どうでしたっけねえ。

なんで私、ここに居るんでしたっけ。

へ？

ゆくえ…ふめい…？

向こう側…。

……あ。

【演技もとに】

…そう…でした。そうでしたね。

私はそのために、ここに居るんでした。

ええ。

思い出しましたし、正気に、戻りましたよ。

…というか先輩、どうして…。

どうして来てしまったんですか？

あまりにも。馬鹿すぎるんじゃないでしょうか？

はあ……。 (溜息)

…そうですよ。ここが、向こう側です。

ずっとお祭りをやっていて、中々華々しいところでしょう？

ただ、どうもこのお祭りには人を狂わせる力があるようで。気を緩めると先程の私のように、酔っ払ったような状態になってしまふみたいですね。

そして、ここでどんちゃん騒ぎしている人々が町で行方不明になった、その人たちです。

…なんですか？

帰れませんよ。

この村の周りは深い霧に囲まれていて……。出ようとしても気が付くと、ここへ引き戻されるんです。

まあそもそも、帰る方法があつたとしても…。私はその選択をしませんけどね。

……少し、移動しましょうか。先輩。

このお祭りの中にいるのは危険ですし。

どうせなら私の事、見届けてください。

場転

【位置…正面斜め右耳側30センチ】

つきましたよ。

どうですか？

祭り会場の外れに、こんなところがあるんです。なかなか壮観でしょう？

ええ。川沿いに、一面の彼岸花……。

仏教に登場する、彼岸そのものですね。

……ふむ。確かにそうかもしれません。

この川が、仏教の指す三途の川であるのなら、これを渡れば元の世界に戻るのかも……しれませんか。

ですが残念。それは不可能ですよ。

だってこの川の水は、猛毒ですから。

川に少しでも触れれば、

私たちの体は土になって崩壊し、消えてしまうみたいなんです。後はそこから、数本の彼岸花が咲くのみ。

丁度私の母の最期と、同じ症状ですね。

いかだや船を作るという方法も、

考えられなくは無いです、リスクは非常に高いでしょう。

まあ、おそらく。

この世界から帰れる方法があるとすれば、ただ一つです。

私が飲み込んでしまった何かを、この世界に返還すること。

それを成せば先輩含め、この世界に捕らわれた人々も、解放されるかもしれませんね。

あくまで、可能性の話ですが。

【位置…正面斜め右耳側50センチ】

ん、しょ…。

ほら。先輩も隣、寝っ転がってください。

何って、エッチな事するんですよ。

…私、これからここで、自分がどういう行動をとるべきかは、もう分かっているんです。

ただそれを実行に移す前に、多少は先輩と、たわむれておこうかと思ひまして。

いいでしょう？ 先輩。

SE…寝っ転がる

【位置…右耳側5センチ】

ふふっ。じゃあズボン、脱がせますよ。

ぬぎ…。ぬぎ。

ふふ。相変わらず大きいですねえ。

まっすぐ振り返って、

彼岸花の中に、おちんちんが一本だけ生えています。

【位置…次のセリフ、

正面斜め右耳側15センチへ移動しながら】

さてと。では。この辺に座ればいいですかね。

靴を、脱ぎまして…。

…それでは先輩のおちんちん。踏んであげますね。

ん…。

ふふ。熱いですねえ。

タイツ越しでも、しっかりと私の足裏に、
おちんちんの熱が伝わってきます。

ええ。今日はこういうプレイですよ。

先輩のおちんちんを私の足で足蹴にして、イジメてあげています。
踏むだけではなく…。

少しけとばしたりも、しましうかねえ。

えい。えい。

ぺし。ぺし。

ばーか。ばーか。

バカおちんちん。雑魚おちんちん。

こんなおちんちん、蹴っ飛ばされて、

情けなくプルプル揺れてるのがお似合いですよ先輩。ふふふ。

……なんですか？

嫌ですねえ…。Sっ気が強いとか、そういう話じゃないですよ。

正直私今、先輩に怒ってるんです。

決まってるでしょう。

先輩がここへ来たことについて、ですよ。

大して何も知らないくせに、

どうしてこんな、リスクのある行動を取ったんですか？

明らかに間違った選択をしてる自覚、

ありますよねえ？ 先輩。

…ふむ。そうですか。

先輩も私に対して、怒ってるんですか。

そういう返し方をされるとは。成程……。

でしたら先輩。これは喧嘩ということですね。

どうします？

殴り合いでもしますか？

それとも、このままおちんちんと足で、勝負します？

ふふ。

ではおちんちん。

引き続き私の足でイジメてあげますよ。

上からぎゅっと踏んずけて…。

ふみふみ。ふみふみ。

ほら。負けてください先輩。

おちんちん私の足に負けて、潔く自分の非を認めましょうね。

ふみふみ。ぎゅっぎゅっ。
ふみふみ。すりすり。

……。

……ところで、先輩。
先程の話で、なんとなく察したかもしれませんが、
この河原に咲いている彼岸花というのは、
もとは全部、人間だったようですよ。

ええ。

あの川の水に触れて、彼岸花になった人間。
つまり今私たちは、死体の山の上で、えっちしてるってことですね。

いや、知りませんよ。抜きにくいとか。

私今、先輩と喧嘩してるんですよ？
気を遣ったエッチをしてもらえないと思わないでください。
ほんと、馬鹿ですよ。

……あのですね、先輩。

私、この世界へ来た当初、
この河原で人が彼岸花になるのを、見たんですよ。

お祭りにいた集団の一部が、
突然この河原へと移動を始めて。
狂ったように笑い踊りながら、
この川に飛び込んだり、川の水を飲み始めたりしたんです。

そしてそのままその人たちは、
体が土人形のように崩れて消えて、彼岸花になっていきました。

……この世界での人の終わりは、
どうやらそういうモノみたいですね。

祭りによって人々は、どんどん狂って行つて。
狂うところまで狂ったら、

この河原へと導かれて、彼岸花になって消える。
それが、ここへ来た人間が辿る、末路のようです。

どうですか先輩。怖くないですか？

帰ることが出来なければ、先輩もそうなるわけですが、
ここへ来たこと…。ちゃんと後悔してくれました？

はあ…。強がりですねえ、まったく。

……。

…ねえ先輩。手、繋ぎましようか。

ほら。恋人つなぎですよ。ぎゅっ…と。

…ふふ。

指を絡めて、にぎにぎと、先輩とおててセックス…。
気持ちいいです。

さて。それでは先輩。

ここからは、本気でおちんちんイジメて、泣かせてあげますね。

残念ながら手を握ったのは、別に求愛などではなく。

これからこのおちんちんが私に負けるまで、
先輩を逃がさないようにするためですよ。

ほら。

こうやって、先輩おちんちんの亀さんを、
足先でぐりぐりしちゃいます。

ぐりぐり。ぐりぐり。

きめ細かいタイツの生地で、ぐりぐりぞりぞり…。

ふふ。すごい感じ方ですね先輩。

体痙攣させて、私の手をぎゅっと握り締めて。

あんあんビクビク。ちよつとうるさいくらいです。

つらいですか？ 苦しいですか？

おちんちんの敏感な先っぽを、足裏タイツが磨き上げるたび、頭真っ白になって、おかしくなりそうですか？

ふふ。相変わらず弱いおちんちんです。

分かってます？ 先輩。

元はと言えば、このおちんちんがダメなんですよ？

こんなよわよわなおちんちんだから、

私みたいなヤバイ女の子を好きになっちゃうんです。

ちよつとエッチな事された程度で、簡単に好きになって、こんなところまで追いかけてきて……。

ほら。しっかり反省してください。

踏んづけて、足蹴にして、グ

チャグチャに弄んであげますから。

おちんちん弱い、いっぱい後悔しましょうね。先輩。

すりすり。ぐりぐり。

ぐりぐり。ぐちゅぐちゅ。

おちんちん弱い。おちんちん弱い。

先輩のおちんちは、とっても弱いんです。

雑魚で、ダメダメで、少し気持ちよくなるとすぐ、

「この女の子好き好き」ってなっちゃう、単純単細胞おちんちん。ホント、恥ずかしいですよ？ こんなおちんちん。

ばーかばーか。ばーかばーか。ふふふ。

…ねえ先輩。

このまま私が、このおちんちん踏みつぶしてあげましようか？
こんな弱すぎるおちんちん。なくなった方が先輩の為ですから。
私が「えい」って、ひと思いに去勢してあげますよ。

他にもこのまま、亀頭責めの強すぎる快感で、
おちんちん壊しちゃうのも有りかもしれませんね。

その場合はおちんちんと同時に、

先輩の頭も壊れちゃうかもしれませんけど、

私をここまで追いかけてくる愚かな先輩の頭は、

既に壊れてるみたいなのですし、あまり変わらないでしょう。

ねえ先輩、どちらがいいですか？

このままおちんちん踏みつぶされると、

亀頭責めでおちんちんおかしくされるの。

先輩的には、どちらがお好みでしょうか。

ほら。喘いだけかりじゃなく、ちゃんと答えてください。

せっかく私が、先輩のよわよわおちんちんを処理する方法を、

提案してあげてるんです。

選ばないなら強制的に、踏みつぶす方にしますからね。先輩。

ふふ。そうですか。

亀頭責めでおかしくされる方が良くいんですか。

分かりました。

ではこのまま。

さらに激しく、亀頭を磨き上げていきますね。

ぞりぞり。すりすり。

ぐりぐり。ぐちゅぐちゅ。

ふふ。そうですね。ヤバいですねえ。

亀頭とタイツの生地がぐちゅぐちゅと強く擦れて、敏感な神経が直接に快感がダイレクトで流し込まれて、頭が焼かれるようで、こんなのおかしくなりますよね。

良いんですよ先輩。

このまま頭もおちんちんも、

年下の女の子に足蹴にされておかしくなって下さい。

よわよわおちんちん、しっかり壊さないですから。

恋人つなぎしながら亀さんイジメ、いっぱいしてあげますね。

すりすり。ぐりぐり。

ぐちゅぐちゅ。すりすり。

ん？

いやいや。ギブアップなんて受け付ける訳ないじゃないですか。おちんちん、しっかり壊すんですよ。

ほら。無理じゃなくて。

「もっともっと。」って言うってください。

「もっとおちんちんイジメて、

僕の弱すぎるおちんちん、壊しつくしてください。」って。情けなくお願いするんです。先輩。ふふふ。

んー？

おや。どうしても無理なんですか。

ホントにやめて欲しい？

ふふ。全く先輩は、しょうがないですねえ。

SE…足コキ終了

では、これくらいで許してあげましょう。

…正直言えば私、先輩がここへ来てくださって、ほんの少しだけ嬉しかったですから。
おちんちん壊すのは、勘弁してあげますよ。

はい。仲直りです。先輩。

……さて。それでは射精しましょうか。

おちんちん足で挟んで、しこしこしてあげますね。

しこしこ。しこしこ…。

ふふ。もう出そうですか？
たまたまが上がってきてます。

良いですよ先輩。

ビュービュードクドク。いっぱい出してください。
ぎゅーって手を繋ぎながら、

私のタイツを精液で白く染め上げるの、
とっても気持ちいいと思います。

ほらほら。おちんちんどんどん、追い詰められていきますよ。
もうイっちゃう。お漏らししちゃう。

出る出る出る。イクイクイク。

出せ出せ出せ。イケイケイケ…！

ええ。お射精どーぞ。先輩。

びゅー。びゅー。びゅー…。

びゅるるー。びゅるるるー。

どく、どく。びゆく。びゆく。

ぴゅっ…。ぴゅっ…。ぴゅっ…。

ふふ、足に沢山、かかってますねえ。

…キス。しますか？
…はい。

【位置…次のセリフで正面5センチへ移動】

ではもう片方の手も、恋人つなぎで。
にぎ…にぎ。ふふ。

こうやって上から、
太ももでおちんちん、スリスリしてあげますから。
最後まで出し切ってくださいね。先輩。

【キス、20秒】

出し切りましたか？
お疲れさまでした。

【位置…正面15センチ】

ふふ。見てください。
私のタイツ、先輩の精液でドロドロになっちゃいましたよ。
いえいえ。まったく悪い気はしないですから、大丈夫です。

ですがまあ、さすがにベタベタするので、脱ぎましょかね。
ん、しょ……。

SE…タイツを脱ぐ

よし。脱ぎ終わりました。
ふふ。何ですか先輩。視線、いやらしいですよ？
脱ぎたての生足に興奮するとか。
相変わらず変態ですねえ。先輩は。

トラック 8…退廃騎乗位えっち

【位置…正面 30 センチ】

なんですか？

それはまだ教えませんよ。
ですが、なんとなく分かってるんじゃないですか？
私が何をするつもりなのか…。

……ところで先輩。
まだおちんちん。大きいままですねえ。
そして私、エッチし足りないなと、
今思っているのですが…。

…おまんこ。しましうか。先輩。

【位置…正面 15 センチ】

ほら。挿れますよ。

んっ…。ふう…。んあ…。あっ…。

【位置…正面 5 センチ】

はあ…。はあ…。はあ…。はあ…。

ふふ。入りました。
これで私の中に先輩のおちんちんを入れるのは、
三度目ですね。

……動きますよ。

足コキで沢山興奮してましたから、
既にぐちゅぐちゅトロトロの、おまんこピストンです。

【演技…ここからセックススタート。】

んっ…。あっ…。あっ…。はぁ…。
んっ…。ふう…。あっ…。はぁ…。

ふふ。お顔トロトロですよ？

おちんちん弱いから、

おまんこされたらすぐ、感じちゃうんですね。先輩。

んっ…。はぁ…。

…抱き合いますか？

【位置…次の「ぎゅーう」でセリフで左耳側のセンチへ移動】

ふふ。それでは。ぎゅーう。

【ここから囁き】

んっ…。あっ…。ふう…。はぁ…。
あっ…。んっ…。ふう…。んっ…。

ねえ先輩。

好き…。ですよ。

…好き。…好き。大好きです。先輩。

んっ…。あっ…。はぁ…。ふう…。

…しかし。便利な言葉ですよね。「好き」って。

どんなに歪んだ感情でも、好きの一言に包んで吐き出せば、
まるでそれが、

キラキラとした綺麗なもののように感じるでしょう？
便利で、卑怯な言葉だと、そう思いませんか？

んっ…。ふう…。はぁ…。ふう…。

…本当は、先輩。

今すぐにでも、言いたいんです。

私と。

私と一緒に、…んで、くれませんか？ って。

あっ…。んっ…。

ですが、言えませんか。

優しい先輩のコト、壊せないから。

好きって、言うんです。

んっ…。あっ…。はぁ…。ふう…。

好き…。好き…。

ずっと、大好きでしたよ。先輩…。

【耳舐め20秒】

んっ…。あっ…。はぁ…。ふう…。
あっ…。んっ…。ふう…。はぁ…。

ばーか。

ばーかばーか。ふふ。

んっ…。あっ…。はぁ…。ふう…。

…私ね先輩。

先輩の馬鹿さ加減については、結構本気で、心配してるんですよ？

もし帰れたとしても、こんな馬鹿な先輩では、人生苦労するでしょうから。

んっ…。あっ…。はあ…。ふう…。

頭をなでれば、馬鹿なのが治ったりしませんかねえ。試してみましようか。

んっ…。あっ…。ふう…。

よし…。よし。よし…。よし。

良い子。良い子…。

馬鹿なの治れ…。

馬鹿なの治れ…。

頭悪いの、どうにかなーれ。

んっ…。あっ…。はあ…。ふう…。

ふふ。全くダメそうですねえ。

お顔トロトロで、相変わらず知性のかけらもありません。

やはり先輩は、一生馬鹿なまま生きるしか、無いんでしょうね。

はあ…。はあ…。んっ…。はあ…。

おまんこ気持ちいいですね。

抱きしめあって、ぬちゅぬちゅされて。

馬鹿だからこの程度で、簡単に幸せ、感じちゃいますからねえ。

んっ…。あっ…。はあ…。はあ…。

それで、私を好きになって…。ホント馬鹿です。

ばーかばーか。ばーかばーか。

好き。大好き…。ばーか。

んっ…。あっ…。はあ…。ふう…。
あっ…。んっ…。ふう…。はあ…。

ねえ。先輩。

夢を語ってもいいですか？

そう。私の夢、聞いてくれますよね。

【囁き終了】

【位置…次の喘ぎで正面5センチへ移動】

んっ…。あっ…。ふう…。はあ…。

私ね先輩。

将来不労所得で生活するのが、夢なんですよ。

それで、家に引きこもって生活しながら、

私の家に先輩を、監禁するんです。

んっ…。あっ…。はあ…。はあ…。

おバカな先輩はきつと、お願いすれば逃げないでしょうから。

そのまま家の中で、私が先輩の全部をお世話して、

一日中ずーっとセックスして過ごせたら、

幸せだろうなって。思うんですよ。

どうです先輩。いい夢でしょう？

はあ…。はあ…。んっ…。はあ…。

ふふ。私らしいというのは、褒めてるんでしょうか。

あっ…。んっ…。

まあでも先輩。

この夢が叶うことは無いので、安心して下さい。

ええ。かなわない夢ですよ。

はあ…。はあ…。

ふふ。ノーコメントで。ばーか。

【キス20秒】

んっ…。あっ…。はぁ…。はぁ…。
はぁ…。んっ…。ふう…。はぁ…。

べろちゅーも気持ちいいですねえ。先輩。

お口の中、女の子の舌でぐちゃぐちゃに凌辱されて。
頭が真っ白の濃厚べろちゅーセックス。

先輩、大好きですもんね。

んっ…。はぁ…。ふう…。はぁ…。

あの。先輩。

先輩も、夢とかあるんでしょうか？

もし帰れたら、かなえたい夢。

やりたい…。こと。

んっ…。あっ…。ふう…。ふう…。

あー…。いえ。やはり答えなくて結構ですよ。

先輩の未来の話とか、聞きたくないです。

んっ…。あっ…。

ですが、先輩。

もしお願いを聞いてくれるなら、
私のために嘘の夢を、語ってくださいよ。

そう。嘘で良いので先輩も、

私と同じ夢を、語って欲しいんです。

んっ…。あっ…。はぁ…。んっ…。

そうですねえ。

「僕の夢は、穂乃果に監禁されて、永遠にセックスをすることです」……って、言ってください。

はあ……。はあ……。あつ……。んっ……。

ほら。私に続いて復唱ですよ。ちゃんと言えますよね。先輩。

んっ……。ふう……。

…僕の夢は。

んっ……。あつ……。

穂乃果に監禁されて。

あつ……。んっ……。ふう……。はあ……。

永遠にセックスをすることです。

あつ……。んっ……。はあ……。ふう……。¥

よわよわおちんちんをずっと穂乃果に犯されて。

んっ……。ふう……。はあ……。はあ……。

来る日も来る日もほのかのおまんこに。

あつ……。んあ……。あつ……。はあ……。

ビュービュー中出し、したいです。

はあ……。はあ……。んっ……。はあ……。

ふふ。よく言えましたねえ先輩。いい子です。

いえいえ。足してないですよ。

先輩が馬鹿だから、付け足したように聞こえただけでしょう。ばーかばーか。

黙ってペロチューしてて下さい。先輩……。

【キス20秒】

んっ……。あっ……。はぁ……。ふう……。
あっ……。んっ……。ふう……。はぁ……。

そっか。そうですか。

センパイの夢は。私に、監禁されること。

先輩の望みは。私に、犯されること。……ですか。

はぁ……。はぁ……。んっ……。あっ……。

ふふ。満足です。

いい夢が見れました。

嬉しくて沢山。

おまんこが締まっちゃいますよ。

んっ……。あっ……。はぁ……。ふう……。
あっ……。んっ……。ふう……。はぁ……。

ですが。先輩。

んっ……。あっ……。

本当はね。

本当は週に数回、一緒に図書当番をしているだけで。
私は十分、だったんですよ。

んっ……。あっ……。はぁ……。ふう……。

……ふふ。これは私の中で唯一の、
歪みのない好き。なんでしょうか。
はぁ……。はぁ……。

……よく分からないですね。先輩。

【キス20秒】

んっ…。あっ…。はあ…。はあ…。
あっ…。んっ…。ふう…。はあ…。

…そろそろ、ですか？

おまんこの中にびゅーびゅーどくどく、
精液吐き出しちゃいますか？ 先輩。

はあ…。ふう…。

ふふ。ではラストスパートということで。
腰を激しく、打ち付けちゃいますね。
ほら。

んっ。あっ。はあ。はあ。
あっ。んっ。ふう。ふう。

気持ちいいですか？

私の本気ピストン、感じますか？

先輩のコト大好きで、
とろとろぐちゅぐちゅになった私のおまんこが、
おちんちんをじゅぶじゅぶパンパン、しごき上げてますよ。

んっ。あっ、はあ、はあ。

ふふ。そんな必死に抱きついて、相変わらず情けないです。
ばーかばーか。
ばーかばーか。

よわくて馬鹿なおちんちん、
はやくびゅーびゅー。しちゃいましょねえ。先輩。

【キス20秒】

んっ、あっ、はあ、はあ。
あっ、んっ、ふう、はあ。

はい。限界ですね、出ちゃいますね。
びゅーびゅーどくどく生中出し、しちやいますね。

んっ、あっ、はあ、ふう…。

ではどうぞ、とろとろおまんこに、
沢山中出ししてください。
出して。出して。イって。イって。

イケ。イケ。出せ。だせ。
イク。イク。出る。出る。
さーん。にーい。いち。
んっ、あっ…。

はい。中出しどうぞ。先輩。

【キス10秒（以下、キスしながら）】

んちゅ…。ちゅ…。
ん！ んん！ んーっ！（絶頂） んっ…。
はむ…。むちゅ…。

【引き続きキス20秒】

ふふ。ビュービュービクビク。沢山出ましたね。
おなかの中、あたたかいです。
そしてまた、性懲りもなく中出しして。
ホント馬鹿ですねえ、先輩は。

……もう少しキス、してましょか。

あと数分だけで良いですから。

先輩とのまどろみの中に、浸かっていたいです。先輩…。

【キス20秒】

（フェードアウトさせます）

トラック9…独立

【正面5センチ】

さて。それではセックスも終わったことですし、潮時ですかね。そろそろ私の義務を、果たすことにしましょう。

【正面30センチ】

…先輩。

私今から、この川に身を投げようと思います。

私が飲み込んでしまった何かをこの世界に返す方法は、おそらくそれなんだろうなと、考えました。

しなくていい訳ないでしょう？

聞いてくださいよ。向こうから聞こえてくる祭囃子を。

「盗人を探せ」「盗人を探せ」と。

今もこの世界は、はやし立てているんです。

私が決断しなければ、この祭りは終わりません。

…それに、存外悪くない気分なんですよ？ 今の私は。ずっと。

しかるべき報いを受けたいと、思っていましたから。

はい？

はあ。確かに、「盗品を探せ」ではなく、

「盗人を探せ」と、この祭囃子は言ってますね。

……なんですか？

何が言いたいんですか？ 先輩。

SE…主人公がカバンを開け、何かを取り出す。

…それは。

…もしかしてその彼岸花は、私の母ですか？

【演技…ここから少しだけ怒りをにじませて。(少しです)】

摘んだって、ことですか？
私の家の庭から。

…ああ。理解しましたよ。
つまり先輩はこういいたいんですね。
この世界が探しているのは盗まれたモノではなく。
盗んだ犯人、なのだから。

「川に沈むべきは私の母親だ」…って。

成程。確かに試してみる価値はある仮説です。
ですが……。

……。

…ねえ先輩。

ご自分が言ってること、
あまりにも残酷だと、そう思わないんですか？

【ここから訴えるように】。

私がどうしてあの日、
その彼岸花を踏まないでくださいって、
先輩に言ったと思ってるんです？

どうしても。

母親を切り捨てられずにいたからですよ。

悪いのは母だけじゃないって。
私にも責任があるって。
そう思っていたいからこそ。
私はその花に水をやって、
ここに来たんじゃないですか。

【ここから弱弱しく】

なのにどうして……。
どうして最後に、
母親をさらに罰して、
全ての責任を取らせるなんていう選択を。
先輩が提示するんですか？

これで解決したら、
結局私の母が全部悪いってことに、
なっちゃうじゃないですか……。

…それでも。ですか。
私も、生きたいですよ。本当は。

ですがこの帰結は、最悪の結末だと、思います。

……。

……先輩。

私、今からここで、目をつむりますね。
耳も、塞ぎます。
何も見ないし、聞きません。

だから…。その…。お願いします。先輩。

すう……。ふう……。(呼吸音一回)

SE…耳を塞ぐ穂乃果

SE…そのまま川に向けて歩き出す主人公

【位置…後ろ斜め左耳側50センチ】

…樂に死なせてくれたら、気持ちよかったのになあ。

……一生恨みます。先輩。

SE…花を投げる音、川へ落ちる音

トラック１０…添い寝

SE…扉を開ける音

【位置…正面３０センチ】

こんばんはですね先輩。
お風呂、上がりましたか？

しーっ。

大きな声を出さないでくださいよお。
ご家族が来たらどうするんです？

ええそうですよ。窓から忍び込みました。

おやおや、文句を言われるのは心外ですねえ。
私がこういう女の子であることは、
とっくにご存じでしょうに。

決まってるでしょう？一緒に寝るためですよ。
ほら。お布団入りましょう。先輩。

SE…ベットに寝る

【位置…左耳側０センチ】

【ここから囁き】

……なんですか？
寝苦しいとか、知りませんよ。
私はコレくらい密着してないと、嬉しくないので、
我慢してください。

言っておきますが、
私これから、毎晩先輩のもとへ来るつもりですからね。
ちゃんと慣れないと大変ですよお。先輩。
ほら、目を閉じて。リラックスしましょう。

【呼吸音、20秒】

……ねえ先輩。

結局、8割程度の人しか、帰ってきませんでしたね。

あのあと川が干上がった、祭りがやんで。

それでも、

こちらへ渡らず向こう側へ留まった人がそれなりにいたのは……。何とも言えない話です。

ふふ。そうですね。考えない方が良いですね。

ですがそういう先輩だって、色々考えちゃうんでしょう？

この思考からは逃げられませんよ。ずっと……。

【呼吸音、20秒】

【演技…リラックスした感じで】

……ばーか。

……ばーか。

……ばーか。ふふ。

……いえ。先輩を前にすると、無性に言いたくなるんですね。

まあ先輩はおバカさんですから、言われるのは仕方ないですよ。受け入れましょう。

ばーかばーか。

ばーかばーか。

……ふふ。先輩はいつも、馬鹿にすると嬉しそうにします。なかなか気持ち悪いですねえ。ホント。

【呼吸音、20秒】

【演技…少し眠くなってくる】

ねえ先輩。

結局、私が飲み込んだあの、黒い飴玉のようなものは、なんだったんでしょう。

別に、特に体への異常も、無いようですし……。

……分からないのは、それだけじゃないですねえ。

向こう側というのは何だったのか。

これで本当に、一件落着のなのか……。

何にも分からないですよ。私達。

どうします？ 突然私が明日、行方不明になったら。

……冗談ですよ。

冗談ですけど……。

心配ならもっと、私の事抱きしめたらどうでしょうか。先輩。

【呼吸音、20秒】

先輩。抱きしめるのもいいですけど……。

セクハラとか、しないんですか？

つまらないですねえ。

……こんなにおちんちん、大きくしてるくせに。

まあ。いいですよ。

したかったら私の方から、犯すので。

ただ、今は私も眠いので、

寝かせてあげますね。先輩。

【呼吸音、20秒】

【演技…だいぶ眠い状態】

…私って。なんでまだ、生きてるんでしょうねえ。
不思議です。帰ってきてから、ずっと不思議で。
…空っぽなんです。

【呼吸音、20秒】

【演技…半分眠ってて、ろれつも回らない感じ】

…先輩はズルいですね。幸せそうで。
好きな女の子一人救って、悦に浸ってますか？
気持ちの悪いことで。

【呼吸音10秒】

ばーか…。
すう…。ふう…。
すう…。ふう…。
ばーか…。

【呼吸音30秒】

大好きですよ。先輩。

トラック１１..

*祭囃子に混ぜる音声

【位置…正面３０センチ】

【演技…無機質に抑揚なくお願いします。

（化け物が合唱してるイメージです。）】

盗人を探せ。盗人を探せ。盗人を探せ。盗人を探せ。
盗人を探せ。盗人を探せ。盗人を探せ。盗人を探せ。
盗人を探せ。盗人を探せ。（１０回）

*トラック４のオナニー音声

【位置…左耳側１５センチ】

【演技…ゆったりとオナニーする感じ】

んっ…。あっ…。はぁ…。ふう…。
あっ…。んっ…。はぁ…。はぁ…。
先輩…。いいですよ…。あっ…。んっ…。
そこ、気持ちいです…。
はぁ…。はぁ…。あっ…。んっ…。
ふう…。ふう…。んっ…。あっ…。

好き…。好き…。んんっ…。あっ…。
先輩、好き…。はぁ…。はぁ…。

エッチ、じょうずですねえ、先輩。
んっ…。あっ…。感じちゃい…ます……。
あっ…。んっ…。はぁ…。はぁ…。
んっ…。あっ…。ふう…。あっ…。

おっばい…。おっばいも…。弄ろうかな…
先っぽ…。きゅって…。あっ、んっ…、んあ…。
はあ…。はあ…。んっ…。あっ…。

ふふ。おっばい、敏感になって…。
んっ…。あっ…。気持ちいい…。
はあ…。はあ…。

んっ…。はあ…。あっ…。んっ…。
でも…。物足りない…。おちんちん、欲しい…。

ふう…。ふう…。あっ…。んっ…。
んっ…。ふう…。はあ…。はあ…。

先輩。もっ…。もっ…。ですよお。
んっ…。あっ…。はあ…。はあ…。

もっと、おまんこしましよ。

おまんこ。おまんこ…。

んっ…。あっ…。はあ…。はあ…。
あっ…。んっ…。ふう…。ふう…。

うう…。切ない…。

んっ…。あっ…。先輩が、たりない…。

あっ…。んっ…。はあ…。はあ…。

んっ…。あっ…。ふう…。ふう…。

はあ…。はあ…。はあ…。んっ…。

ふう…。はあ…。んっ…。あっ…。

ねえ…。先輩…。たす…。けて…。
んっ…。はあ…。あっ…。んっ…。

助けて。くださいよ…。先輩…。

あっ…。んっ…。はあ…。はあ…。

んっ…。あっ…。はあ…。はあ…。

えっと…。ローター、確か…。この辺に…。

んっ…。あっ…。はあ…。はあ…。

じゃあ…。クリトリスに…。

【演技…ここから喘ぎ激しく】

んっ、んあ…。あっ、んっ。

あっ、ああっ。んっ。はあ。

ふふ。さすがに刺激、つよいかな…。

んあっ。あっ、うっ…

せんぱい、もう、いきそう、です…。

あっ、んっ、はあ、はあ、

んっ、んっ、ふう、ふう。

あ、んんっ…！んあ…。あ…。イツ……………！（絶頂）

【一度ローターを離す（喘ぎもストップ）】

はあ…。はあ…。はあ…。はあ…。

おお。べちゃべちゃ…。

まあ、良いか。それより、もっと…

【演技…ここからまたローターを当て、喘ぎ激しく】

んっ…。んんっ…。あっ。ああっ。

はあ、はあ、んっ、あっ…。

好き。先輩…好き。

あっ、んっ、はあ…。はあ…。

はあ…。はあ…。んっ、あっ。

あっ、ああっ、んっ、あっ…。

ふーっ。ふーっ。んっ…。あっ…。

はあ、はあ、んっ、あっ…。（フェードアウト）